

## 4-4 文化人類学

### 研究・教育活動の概要と特色

本専攻分野の研究・教育活動では、参与観察という人類学の基本的方法に立脚して社会と文化のあり方を実証的に研究することに高い価値を置いている。

学部教育においては、概論を基礎とし、それに加えて二年次に基礎講読と基礎演習によって民族誌の読み方を学ばせ、三年時に演習と実習で文献研究と実態調査を平行して経験させ、その上に卒論を置くという積み重ね式のカリキュラムを組んでいる。

大学院教育においては、前期課程だけを履修する学生と後期課程まで進む学生では当然ながら目標設定と指導方法に違いがあるが、前者においては学生の希望に応じて特定地域あるいは特定テーマに関する文献研究または特定対象についての短期的な実態調査に基づく修士論文の作成を目標とし、後者においては前期課程において特定地域に関する総合的な文献研究を行ったうえで後期課程において長期的かつ集約的なフィールドワークに基づく博士論文の作成を通して専門研究者としての独自の領域を開拓することを目標としている。いずれにおいても各自が独力で具体的な民族誌研究に取り組む力を養うことを重視し、それに向けて全員で進捗状況を報告しつつ研鑽する「院生研究会」を毎月1回開催しており、それに加えて各教員は個別のきめ細かな指導に心がけている。留学生の大学院進学者については、日本でフィールドワークを行い、民族誌的な修士論文・博士論文を作成することを促している。

2名の教員の専門領域はいずれも東アジアだが、大学院生の研究対象地域はアフリカやヨーロッパ、アメリカなど世界各地に広がっている。また学部・大学院を通じて海外留学を目指す学生が多いことも特徴である。

## I 組織

### 1 教員数（2013年9月末現在）

教授：1

准教授：1

講師：0

助教：1

教授：沼崎一郎

准教授：川口幸大

## 2 在学生数（2013年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
35	0	3	0	0

## 3 修了生・卒業生数（2009～2013年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
09	9	0	1
10	10	1	0
11	14	1	0
12	7	3	1
13	1	0	0
計	41	5	2

\* 2013年度は、9月末までの数字

## II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2009～2013年度）

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
09	1	0	1
10	0	0	0
11	0	0	0
12	1	0	1
13	0	0	0
計	1	0	2

\* 2013年度は、9月末までの数字

#### 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

久保田亮、2009年度、『アメリカの周縁に生きる人びとの民族誌 — 先住民—

国家関係の歴史動態とチュピックの日常 - 』

審査委員：教授・嶋陸奥彦（主査）、教授・沼崎一郎、教授・吉原直樹、教授・岸上伸啓（国立民族学博物館）

杉本敦、2012年度、『ポスト社会主義ルーマニアの牧畜と家族—トランシルヴァニア山村の民族誌』

審査委員：教授・沼崎一郎（主査）、教授・長谷川公一、教授・佐々木史郎（国立民族学博物館）、准教授・川口幸大

## 2 大学院生等による論文発表

### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
09	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0
12	0	1	1	1	3
13	0	0	0	0	0
計	0	1	1	1	3

\* 2013年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

### 2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
09	0	1	0	0	1
10	0	0	1	0	1
11	0	0	1	0	1
12	0	1	4	0	5
13	0	0	1	0	1
計	0	2	7	0	9

\* 2013年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

### 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

#### (1) 論文

西川 慧 「在日オンドネシア人ムスリムの「つながり」と「へだたり」」『東北人類学論壇』11:26-43、2012.3.

杉本 敦 「現代ルーマニア農村における家族のつながり—家畜飼育の現場から—」高谷紀夫・沼崎一郎編『つながりの文化人類学』東北大学出版会、pp.135-169、2012.3.

移子川 美由紀 「日本に嫁ぎキムチを販売する韓国人女性の生活誌—宮城県大衡村の事例から」『東北人類学論壇』12:97-110、2013.3.

## (2) 口頭発表

杉本 敦 「ポスト社会主義ルーマニアにおける土地の利用と意味—トランシルヴァニアの一山村の事例より—」日本文化人類学会 第43回研究大会、2009.5.30.

杉本 敦 「ルーマニアにおける「伝統的」牧畜生活の変容と持続—トランシルヴァニアの山村を事例として」日本文化人類学会 第46回研究大会、2012.6.24.

## 3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

## 4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

## 5 留学・留学生受け入れ

### 5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2009年度

学部3名 インドネシア大学（インドネシア）、雲南民族学院（中国）、  
外国語学院（カナダ）

2011年度

学部1名 ウメオ大学（スウェーデン）

2012年度

学部2名 ストラスブール大学（フランス）、テンプル大学（アメリカ）

2013年度

学部3名 ストックホルム大学（スウェーデン）、ウプサラ大学（スウェーデン）、オウル大学（フィンランド）

## 5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
09	2	1	3
10	1	1	2
11	1	1	2
12	1	1	2
13	1	2	3
計	6	6	12

## 6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
09	0	0	0
10	0	0	0
11	0	0	0
12	0	0	0
13	0	0	0
計	0	0	0

## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

### 7-1 専攻分野出身の研究者

渋谷 努 東北大学文学研究科 21st COE プログラム「社会階層と不平等研究」  
研究員、2003 年度（2005 年度まで）

渋谷 勉 中京大学国際教養学部国際教養学科、教授、2009 年 4 月－

松本尚之 東北大学・大学院文学研究科、助手、2003－5 年度

松本尚之 東洋大学 国際共生社会研究センター 研究助手、2007 年 4 月－

松本尚之 横浜国立大学教育人間科学部国際共生社会課程、専任講師、2009 年  
4 月－2010 年 3 月

松本尚之 横浜国立大学教育人間科学部国際共生社会課程、准教授、2009 年 4  
月－

川口幸大 国立民族学博物館機関研究員、2007－9 年度

川口幸大 東北大学・大学院文学研究科、准教授、2010 年 4 月－

久保田亮 東北大学・大学院文学研究科、助教、2007 年 10 月－2010 年 3 月

久保田亮 立教女学院短期大学・英語科、講師、2010年4月－2012年9月  
久保田亮 大分大学経済学部、准教授、2012年10月－  
杉本敦 東北大学・大学院文学研究科、助教、2013年4月－

## 7-2 専攻分野出身の高度職業人

8名 翻訳業、外務省外郭団体、JICA、高校教員(3名)、仙台市職員(3名)、  
栃木県職員(1名)

## 8 客員研究員の受け入れ状況

なし

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

## 10 刊行物

『東北人類学論壇』（年刊）

## 11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2009年度 東北人類学談話会事務局  
東北人類学談話会研究会（5回）  
2010年度 東北人類学談話会事務局  
東北人類学談話会研究会（4回）  
国際シンポジウム「台湾研究の過去・現在・未来」  
2011年度 東北人類学談話会事務局  
東北人類学談話会研究会（5回）  
人類学フェスティバル  
2012年度 東北人類学談話会事務局  
東北人類学談話会研究会（2回）  
人類学フェスティバル  
2013年度 東北人類学談話会事務局  
東北人類学談話会研究会（5回予定）

## 12 専攻分野主催の研究会等活動状況

なし

### 1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

文化人類学研究を支える基本は緻密なフィールドワークであり、博士学位論文に向けてのフィールドワークは研究者としての土台を形成する最も重要なステップである。従って専門研究者養成のための大学院教育はその準備と現地調査の実施を中心に組み立てなければならない。本研究科における文化人類学専攻分野は1993年度に新設されたが、草創期の試行錯誤段階を経て、博士課程前後期を通じた本格的な教育プログラム策定に至ったのは発足から5年目の1997年度だった。そのプログラムに従って前期課程において綿密な準備を行い、しっかりとした調査計画を練ったうえで、2年から3年のフィールドワークを行った学生は通算5名おり、その調査地はフランス、モロッコ、ナイジェリア、中国、アラスカ、ルーマニアの各地にわたっている。

過去5年間に限っては、アラスカで調査を行った学生1名が2009年度に博士論文を提出し、ルーマニアで調査をおこなった学生1名が博士論文を執筆中である。

2007年度には仙台市職員1名が博士課程後期の課程に社会人として入学し、職務の傍ら、仙台市の多文化共生施策に関する公共人類学的な研究によって博士学位取得を目指していたが、東日本大震災後の職務多忙のため2011年度末をもって退学した。しかしながら、遠くない将来に復学を希望している。こうした需要に応えるべく、博士課程後期の課程において、応用人類学・実践人類学の教育プログラムを充実させたいと鋭意努力中である。そのため、2008年度～2010年度にかけて、科研費を取得して異文化共生の公共人類学的研究を実施し、仙台市国際交流協会等との実践的な研究交流ネットワーク作りを行った。

この5~6年間の大きな変化は、博士課程前期の課程を修了して教員あるいは公務員を目指す学生が顕著に増加したことである。2008年度に2名、2010年度に1名が修士学位取得後自治体等に就職している。こうした学生の需要に応え、博士課程前期の課程においても、応用的・実践的な研究教育に取り組み始めている。2011年度は、4名の学生が東日本大震災をテーマとしてフィールドワークを行い、いずれも2012年度の卒業論文研究へとつなげている。うち2名は、川口准教授と共著の論文を、2012年度の日本文化人類学会第46回研究大会のシンポジウムで発表している。

学部生の教育においても、従来同様フィールドワークを中心とした教育に応用的・実践的な訓練を加味するため、文化人類学実習と有機的に連携した仙台市国際交流協会におけるインターンシップを2010年度に開始した。2010年度は1名、2011年度は

3名、2012年度3名、2013年度2名が、同協会のインターンとなっている。

フィールドワーク以外にも海外へ向かう学生たちの意欲はきわめて高いものがあり、学部・大学院を通じてほぼ毎年複数の学生が海外留学をしている。その留学先もアメリカ、カナダ、スウェーデン、フィンランド、アイルランド、ドイツ、フランス、スペイン、ルーマニア、ロシア、イラン、中国、韓国、ベトナム、タイ、インドネシア、オーストラリア、メキシコ、アルゼンチンなど極めて多様である。

留學生の受け入れに関しても同様で、ほぼ毎年複数の学生を受け入れており、双方向的国際学術交流の実績を積んでいる。

本専攻分野が運営事務を引き受けている東北人類学談話会は年間5回前後の研究発表会を開催しており、大学院生を主体とする研究会も活発に活動を展開している。また研究成果発表のために2002年度に創刊した『東北人類学論壇』は、大学院生のフィールドワークに基づく学術論文を中心とするが、卒業論文のなかでも調査資料として貴重な成果をあげたものは研究ノートとして掲載している。このジャーナルは通常の製本雑誌態のほか、電子ジャーナルとしてホームページ上にも公開している。

2010年度からは、学部生のための研究発表と交流の機会を設けるため、東北地方の諸大学と協力して人類学フェスティバルを秋に実施し、学部4年生を中心にフィールドワークの成果をポスター発表している。2010年度は東北大学、2011年度は弘前大学、2012年度は山形大学で開催され、2013年度は東北学院大学で開催される予定である。2012年6月の日本文化人類学会においては、学部生2名が川口准教授とともに発表を行い、高い評価を得ている。今後、学部生の学会発表を増やしていきたい。

### Ⅲ 教員の研究活動（2009～2013年度）

#### 1 教員による論文発表等

##### 1-1 論文

嶋 陸奥彦 「韓国農村における地縁的社会単位（“自然村／自然部落”）再考」、  
『東北人類学論壇』8:1-21, 2009.3.

沼崎 一郎 「社会の多元化と多層化—1990年以後のエスニシティと社会階層」、  
沼崎一郎・佐藤幸人編『交錯する台湾社会』アジア経済研究所、pp.37-68、  
2012.3.

NUMAZAKI, Ichiro, “Re-representing Violence as Violence: Cultural Struggle  
against Wife Battering in Japan Today.” 『東北人類学論壇』11:1-25, 2012.3.

NUMAZAKI, Ichiro, “Too Wide, Too Big, Too Complicated to Comprehend: A



- Personal Reflection on the Disaster That Started on March 11, 2011.” *Asian Anthropology* 11, pp.27-38, 2012.
- 沼崎 一郎 「グローバリゼーションと社会の多元化がもたらす不平等——台湾の新しい格差問題」佐藤嘉倫・木村敏明編『不平等生成メカニズムの解明——格差・階層・公正一』ミネルヴァ書房、pp.53-77、2013.3.
- NUMAZAKI, Ichiro, “The Pluralization and Multitiering of Society in Taiwan: Ethnicity and Social Stratification since the 1990s.” In Toshiaki Kimura (ed.), *Stratification in Cultural Contexts: Cases from East and Southeast Asia*, Melbourne: Trans Pacific Press, pp.7-30, 2013.3.
- 沼崎 一郎 「フランス・ボアズにおける「文化」概念の再検討（1）—『未開人の心性』1911年版を中心に—」『東北大学文学研究科研究年報』62号、pp.26-56（左 209-239）、2013.3.
- NUMAZAKI, Ichiro, “Ethnoperipheralism: Conceptualizing the Social and Psychological Positionality of Cross-Culturally Raised Children ‘at Home’ .” 『東北人類学論壇』12、pp.1-21、2013.3.
- KAWAGUCHI, Yukihiro, “Lineage Revival and an Attempted Feud: Rethinking Kinship and Identity in Chinese Society.” In *The Tohoku University Global COE Program. The Center for the Study of Social Stratification and Inequality, Annual Report, 2009*. pp.30-34, 2010.3.
- 川口 幸大 「村落の社会変化と祭祀空間としての家の変遷」『近代中国革命、社会転型與国際視野—第四届現代中国與東亞格局国際学術研討会 論文集』 pp.159-183, 2010.8。
- 川口 幸大 「盂蘭節の鬼祭祀にみる神・鬼・祖先の現在」鈴木正崇編『東アジアにおける宗教文化の再構築』 pp.57-80, 風響社, 2010.10.
- 川口 幸大 「廟と儀礼の復興、およびその周縁化—現代中国における宗教のひとつの位相」小長谷有紀・川口幸大・長沼さやか(編) 『中国における社会主義的近代化—宗教・消費・エスニシティ』 pp. 3-26, 勉誠出版, 2010.12.
- 川口 幸大 「珠江三角洲的墳墓與祖先祭祀」『“中華文明視野下的西樵文化”国際学術研討会 會議論文集』 pp.289-296, 2011.7.
- 川口 幸大 「中国村落社会與親族組織的轉變—以珠江三角洲的宗族為例」周太平・包文勝(編) 『百年中国與周辺地域』 pp.101-107, 2011.8.
- 川口 幸大 「械闘未遂事件にみる親族の「つながり」の現在—広東省珠江デル

タの一村落の事例から—」高谷紀夫・沼崎一郎編『つながりの文化人類学』東北大学出版会、pp.33-67、2012.3.

KAWAGUCHI, Yukihiro, “Traditional Funerary Rites Facing Urban Explosion in Guangzhou.” In Natacha Aveline-Dubach(ed.), *Invisible Population: The Place of the Dead in East Asian Megacities*, pp. 123-137. Lanham: Lexington Books. 2012.5.

川口 幸大 「祠堂是“地方(place)”還是“空間(space)”？—来自広東省珠江三角洲的一個事例」『第六届現代中国社会變動與東亞新格局国際学術討論会会議手冊&論文集Ⅱ』pp. 223-235、2012.8.

川口 幸大 「死者祭祀と現代中国—広州市近郊の村落における清明節と孟蘭節」川口幸大・瀬川昌久（編）『現代中国の宗教—信仰と社会をめぐる民族誌』pp. 203-222、京都: 昭和堂、2013.1。

川口 幸大 「現代中国における宗教と信仰の諸相」川口幸大・瀬川昌久（編）『現代中国の宗教—信仰と社会をめぐる民族誌』pp. 1-19、京都: 昭和堂、2013.1。

KAWAGUCHI, Yukihiro “Stratification and Ethnicity in An Averted Feud Incident: The Case of A Village in the Pearl River Delta, Guangdong Province.” In Toshiaki Kimura(ed.), *Stratification in Cultural Contexts: Cases from East and Southeast Asia*, pp.75-94. Victoria, Australia: Trans Pacific Press.2013.3.

KAWAGUCHI, Yukihiro “Les rites funéraires traditionnels face à l’ explosion urbaine dans la grande banlieue de Guangzhou.” In Natacha Aveline-Dubach(ed.), *La Place des morts dans les megalopolis d’ Asie orientale*, 135-148. Paris: Les Indes savantes. 2013.4.

久保田 亮 「チュピック村落社会の学校にみる先住民の自律」窪田幸子・野林厚志編『「先住民」とは誰か』世界思想社、2009.10.

杉本 敦 「現代ルーマニア農村における家族のつながり—家畜飼育の現場から」高谷紀夫・沼崎一郎編『つながりの文化人類学』東北大学出版会、pp.135-169.

## 1-2 著書・編著

嶋 陸奥彦『韓国 道すがら』、草風館、2006.4.

SHIMA, Mutsuhiko (ed.), *Status and Stratification: Cultural Forms in East and Southeast Asia*, Melbourne, Australia: Trans Pacific Press, (2008.3.)

嶋 陸奥彦『つれづれなる日々』レター出版 (2010.2)

- 嶋 陸奥彦『韓国社会の歴史人類学』、風響社、(2010.3)
- 沼崎 一郎 (高谷紀夫と共編)『つながりの文化人類学』、東北大学出版会、2012.3
- 沼崎 一郎 (佐藤幸人と共編)『交錯する台湾社会』、アジア経済研究所、2012.3
- 川口 幸大 (小長谷有紀・長沼さやかと共編)『中国における社会主義的近代化—宗教・消費・エスニシティ』、勉誠出版 2010.12.
- 川口 幸大 (瀬川昌久と共編)『現代中国の宗教—信仰と社会をめぐる民族誌』、昭和堂、2013.1.
- 川口 幸大 『東南中国における伝統のポリティクス—珠江デルタ村落社会の死者儀礼・神祇祭祀・宗族組織』、風響社、2013.3.

### 1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

- 嶋 陸奥彦 「人類学と朝鮮社会史 — 個人的越境の体験 —」、『朝鮮史研究会論文集』第47輯、pp.5-21, 2009.10.
- 嶋 陸奥彦 「列車はどこへ?」、『韓国朝鮮の文化と社会』8号、pp.230-234, 2009.10.
- 沼崎 一郎 「意思決定」日本文化人類学会編『文化人類学事典』丸善書店、pp.22-25, 2009.10.
- 沼崎 一郎 「文化相対主義」日本文化人類学会編『文化人類学事典』丸善書店、pp.776-779, 2009.10.
- 沼崎 一郎 「男性と暴力」加藤千香子・細谷実編『ジェンダー史叢書5 暴力と戦争』明石書店、pp.105-110, 2009.10.
- 沼崎 一郎 「なぜ加害者は暴力をふるうのか」石井朝子編『DV支援者ガイドライン』明石書店、pp.31-37, 2009.11.
- 沼崎 一郎 「同時代の男性学 殺す男たち」天野他編『新編日本のフェミニズム12 男性学』岩波書店、pp.303-306, 2009.12.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育①ウルサイ“目覚まし時計になる”」『看護教育』51巻1号, 2010.1.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育②授業をデザインする」『看護教育』51巻2号, 2010.2.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育③初回の授業の3つ

- のポイント」『看護教育』51巻3号, 2010.3.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育④情熱的恋愛の神話を崩す」『看護教育』51巻4号, 2010.4.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育⑤ドメスティック・バイオレンス」『看護教育』51巻5号, 2010.5.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育⑥性差別と性暴力」『看護教育』51巻6号, 2010.6.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育⑥性差別と性暴力」『看護教育』51巻6号, 2010.6.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育⑦ブック・レポートの使い方」『看護教育』51巻7号, 2010.7.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育⑧ジェンダーの多様性と可変性」『看護教育』51巻8号, 2010.8.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育⑨性別は2つ?」『看護教育』51巻9号, 2010.9.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育⑩現代日本のジェンダー」『看護教育』51巻10号, 2010.10.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育⑪セクシュアリティの多様性と可変性」『看護教育』51巻11号, 2010.11.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育⑫「お決まり」のセクシュアリティに気づく」『看護教育』51巻12号, 2010.12.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育⑬ヘテロセクシズムとホモフォビア」『看護教育』52巻1号, 2011.1.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育⑭現代医療と性」『看護教育』52巻2号, 2011.2.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育⑮女性にとってのリプロダクティブ・ヘルス/ライツ」『看護教育』52巻3号, 2011.3.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育⑯男性にとってのリプロダクティブ・ヘルス/ライツ」『看護教育』52巻4号, 2011.4.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育⑰性と生殖の支配と管理」『看護教育』52巻5号, 2011.5.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育⑱「母性」ってある

- の？」『看護教育』52巻6号, 2011.6.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育<sup>19</sup>「専業主婦」幻想を砕く」『看護教育』52巻7号, 2011.7.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育<sup>20</sup>教室を超えて」『看護教育』52巻8号, 2011.8.
- 沼崎 一郎 (高谷紀夫と共著) 「序章」高谷紀夫・沼崎一郎編『つながりの文化人類学』東北大学出版会、pp.9-31、2012.3.
- 沼崎 一郎 (佐藤幸人と共著) 「序章」沼崎一郎・佐藤幸人編『交錯する台湾社会』アジア経済研究所、pp.3-35、2012.3.
- 沼崎 一郎 「DV加害者の実像と求められる対策」戒能民江他編『講座 ジェンダーと法 第3巻 暴力からの解放』日本加除出版、pp.123-127、2012.11.
- 沼崎 一郎 「書評 呉燕和著(日野みどり訳)『ふるさと・フィールド・列車—台湾人類学者の半生記』風響社」『文化人類学』78(2)、2013.9. (近刊)
- 川口 幸大 「土の中まで変えられない」『月刊みんぱく』33巻4号, pp.22-23、2009.4.
- 川口 幸大 「現代中国の葬儀式<sup>1</sup> 共産党の政策と人々の志向のせめぎ合いのなかで」『SOGI』111号, pp.75-78、2009.5.
- 川口 幸大 「現代中国の葬儀式<sup>2</sup> 中国のお盆—盂蘭節の鬼供養」『SOGI』112号、pp.73-76、2009.7.
- 川口 幸大 「現代中国の葬儀式<sup>3</sup> 一族の祖先祭祀」『SOGI』113号、pp.73-76、2009.9.
- 川口 幸大 「陳氏一族の栄華と革命の歴史を刻む—広東民間工芸博物館(陳家祠・陳氏書院)」『月刊みんぱく』34巻7号, p.14、2010.7.
- 川口 幸大 「他者化をこえて」『勉強通信』28:2-3  
(<http://www.bensey.co.jp/webpr/028.pdf>) 2010.12.
- 川口 幸大 「私と中国<sup>4</sup>」『日中友好新聞 みやぎ版』14号、2012年9月5日。
- 川口 幸大 「「水ゴキブリ」を食べてみるかい？」『月刊みんぱく』編集部編『食べられる生きものたち—世界の民族と食文化』pp. 98-99、東京：丸善出版(『月刊みんぱく』33(1)を再録)、2012.8.
- 川口 幸大 「Ellen Oxfield 著、*Drink Water, but Remember the Source: Moral Discourse in a Chinese Village* 書評」、『華僑華人研究』9: 156-159、2012.11.
- 川口 幸大 「《特集》災害と人類学—東日本大震災にいかに向き合うか 序」

『文化人類学』78(1): 50-56 (林勲男との共著)、2013.6。

川口 幸大 「研究ノート 東日本大震災に関連したフィールドワークを行うこと／それを指導すること―「文化人類学実習」の授業を事例に」『文化人類学』78(1): 111-126 (関美菜子・伊藤照手との共著)、2013.6。

杉本 敦 「EU の東方拡大と移民―ルーマニアの出稼ぎ労働者」石川真作・渋谷努・山本須美子編『周縁から照射する EU 社会―移民・マイノリティ・シチズンシップの人類学』pp.174-176、京都：世界思想社、2012.1.

#### 1-4 口頭発表

嶋 陸奥彦 「家族関係から見た奴婢の姿―17世紀末～18世紀前半の大丘戸籍の事例から -」朝鮮史研究会関東部会月例会、2009.5.16.

嶋 陸奥彦 「韓国―急変する社会の姿―」、斎理蔵の講座、2009.10.3.

嶋 陸奥彦 「振り返る始まり、そしてその後」、国立民族学博物館共同研究特別シンポジウム『韓国研究の回顧と展望』、国立民族学博物館、2010.2.6.

NUMAZAKI, Ichiro, "Anthropology at Tohoku University amid Globalization ", *Annual Meeting of the East Asian Anthropological Association*, Institute of Ethnology, Academia Sinica, Taipei, December, 15-16, 2009.

NUMAZAKI, Ichiro, "Building Public Anthropology in Japan: An Experiment at Tohoku University ", *Anthropology of Japan in Japan*, 天理大学, 2010.4.25.

NUMAZAKI, Ichiro, "Building Public Anthropology in Japan: An Experiment at Tohoku University ", *Annual Meeting of the East Asian Anthropological Association*, Academy of Korean Studies, Seoul, September, 10-11, 2010.

NUMAZAKI, Ichiro, "Too Wide, Too Big, Too Complicated to Comprehend: A Personal Reflection on the Disaster That Started on March 11th, 2011" , *Annual Meeting of the East Asian Anthropological Association*, 国立民族学博物館、2011.9.8-10.

NUMAZAKI, Ichiro, "Never at Home in My Home: Being an "Americanized" Japanese Anthropologist in Sendai, Japan." *Annual Meeting of the East Asian Anthropological Association*, 香港中文大学、2012.7.6-8.

NUMAZAKI, Ichiro, "More Complex, More Diverse: Recent Changes in Ethnicity and Social Stratification and New Inequalities in Taiwan." TASA 2012 Conference, University of Queensland, Brisbane, December 29, 2012.

沼崎 一郎 「帰国児童生活とアメリカ人類学の間―“生まれ育った仙台”で“ア

メリカ帰りの人類学者”として“暮す”ということ―」日本文化人類学会大7  
階研究大会、慶応大学、2013.6.9.

KAWAGUCHI, Yukihiro, “Lineage Revival and an Attempted Feud: Rethinking Kinship  
and Identity in Chinese Society.” Society for East Asian Anthropology, and Taiwan  
Society for Anthropology and Ethnology Conference, Institute of Ethnology,  
Academia Sinica, Taipei, July. 2, 2009.

川口 幸大 「廟と儀礼の復興、およびその周縁化―現代中国における宗教のひ  
とつの位相」、研究フォーラム「中国における社会主義的近代化に関する研  
究会」、国立民族学博物館、2010.1.30.

川口 幸大 「共産党の政策と墓・祖先祭祀の変遷―広東省珠江デルタの事例か  
ら」、国立民族学博物館共同研究「ポスト社会主義以後の社会変容―比較民  
族誌的研究 (代表：佐々木史郎)」、国立民族学博物館、2010.6.5.

川口 幸大 「「鬼」への祭祀にみる現代中国の儀礼と信仰―広東珠江デルタに  
おける盂蘭節の事例から」、文化人類学会第44回研究大会・分科会『現代中  
国における宗教―共産党の政策と人々のいとなみの諸相』(代表：川口幸大)、  
立教大学、2010.6.13.

川口 幸大 「祭祀空間としての家屋の変遷」、仙人の会7月例会、早稲田大学、  
2010.7.31.

川口 幸大 「村庄的社会变化與作為祭祀空間的房屋之變遷」、近代中国革命、社  
会轉型與國際視野―第四届現代中国與東亞格局國際學術研討会、贛南師範学  
院、2010.8.28

KAWAGUCHI, Yukihiro, “Les rites l’explosion urbaine, le cas d’un village de la grande  
banlieue de Canton.” Colloque de clôture du projet ANR Funer Asie, La place des  
morts dans les mégalo-poles d’Asie Orientale: Japon-Chine-Corée, Campus CNRS  
Michel-Ange, Paris, Nov. 4, 2010.

川口 幸大 「村落社会における歴史・文化の再発見事業と華僑華人―珠江デルタ  
僑郷地域からの報告」、日本華僑華人学会2010年度第3回研究会、東亜大学、  
2010.12.4.

川口 幸大 「現代中国において父系出自でつながるといふこと―華南の村落社会  
からの視点」、日本台湾学会第13回学術大会・分科会『親族から考える台湾  
漢族社会の特質―中国、韓国との比較を通して』(代表：上水流久彦)、早稲田  
大学、2011.5.29

- 川口 幸大「人類学による中国研究の新たなパースペクティブ—宗族研究の新展開と社会保障」、仙人の会 30 周年記念シンポジウム「フィールドとしての中国」、武蔵大学、2011.7.10.
- 川口 幸大「珠江三角洲的墳墓與祖先祭祀」“中華文明視野下的西樵文化”国際学術研討会、西樵山大酒店、2011.7.15.
- 川口 幸大「中国村落社会與親族組織的轉變—以珠江三角洲的宗族為例」現代中国與東亜新格局教学與研究工作坊、内蒙古大学、2011.8.21.
- 川口 幸大「現代中国における墓と祖先祭祀—広東省珠江デルタの事例から」、東北地区研究懇談会 2011 年度第 4 回例会、山形大学、2011.12.10.
- 川口 幸大「宗族的“長期持続”與轉變—以珠江三角洲的地区為例」、東亜人類学論壇—人類学與歴史、中山大学(中国・広州)、2012.3.29.
- 川口 幸大「中国村落社会における祖先祭祀空間の変遷—広東省珠江デルタの祠堂を事例に」、空間史学研究会、東北大学、2012.4.24.
- 川口 幸大「人類学の授業に置いて震災に関連したフィールドワークを行うこと／それを指導すること—東北大学文化人類学専修の取り組みを事例として」日本文化人類学会第 46 回研究大会、2012.6.23.
- 川口 幸大「祠堂是“地方(place)”還是“空間(space)”？—来自広東省珠江三角洲的一个事例」第六届現代中国社会變動與東亜新格局国際学術討論会、東華大学、2012.8.22.
- 川口 幸大「香港から国内都市部へ—珠江デルタにおける移住ベクトルの現在」国際シンポジウム「漢族社会におけるヒト、文化、空間の移動—人類学的アプローチ、国立民族学博物館、2012.11.3.
- 川口 幸大「僑郷と海外の関係の変化—“豊かな華僑”／“貧しい僑郷”パラダイムの転換」日本華僑華人学会 2012 年度第 1 回研究会「僑郷華南の現在」、東北大学、2012.12.8.
- 川口 幸大「変容する東アジア社会における格差と移動—中国の事例を中心に」東北大学大学院文学研究科グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」クロージングセレモニー・講演会、ウェスティンホテル仙台、2013.2.16.
- 川口 幸大「市民と人類学との協働の可能性—日中韓サロン(仙台)との関わりから」東アジア公共人類学懇談会「公共人類学と東アジア—日本での経験から」法政大学市ヶ谷キャンパス、2013.3.10.



川口 幸大 「中国村落における烈士記念碑と族譜に表される「日本」」日本文化人類学会第 47 回研究大会、慶應義塾大学 2013.6.9.

久保田 亮「ユピック舞台芸術の「知的所有権」—エスキモー・ダンスの創作・流通・消費をてがかりに」、国立民族学博物館共同研究会「カナダにおける先住民芸術の歴史的展開と知的所有権問題—国立民族学博物館所蔵の北西海岸インディアンとイヌイットの版画の整理と分析を通して」、天理大学、2009.7.12.

杉本 敦「ポスト社会主義ルーマニアにおける土地の利用と意味—トランシルヴァニアの一山村の事例より」、日本文化人類学会・第 43 回研究大会、大阪国際交流センター、2009.5.30.

杉本 敦「ルーマニア農村における牧畜の意義—労働関係の分析を通して」、首都大学東京社会人類学研究会：第 774 回、首都大学東京、2010.7.9.

杉本 敦「ルーマニアにおける「伝統的」牧畜生活の変容と持続—トランシルヴァニアの山村を事例として」、日本文化人類学会・第 46 回研究大会、広島大学、2012.6.24.

杉本 敦「ポスト社会主義ルーマニアの牧畜と家族—トランシルヴァニア山村の民族誌」、日本文化人類学会・東北地区博士論文修士論文発表会、東北大学、2013.3.8.

杉本 敦「ルーマニア農村社会における生産空間の変容—牧草地の利用と変容を中心に」、空間史学研究会、東北大学、2013.6.27.

## 2 教員の受賞歴 (2008～2012 年度)

なし

## IV 教員による競争的資金獲得 (2008～2012 年度)

### (1) 科学研究費補助金

嶋 陸奥彦 平成 20～22 年度 基盤研究 (B) 「現代社会における異文化共生の公共人類学的研究—東アジアと北アメリカの比較—」(研究代表者)

沼崎 一郎 平成 18～21 年度 基盤研究 (C) 「人権概念の比較文化的研究」(研究代表者)

沼崎 一郎 平成 20～22 年度 基盤研究 (B) 「現代社会における異文化共生の公共人類学的研究—東アジアと北アメリカの比較—」(研究分担者)

川口 幸大 平成 23 年～25 年度 若手研究 B「中国農村部における社会保障についての文化人類学的研究」(研究代表者)

川口 幸大 平成 24 年～26 年度 基盤研究 (C)「現代中国社会の変容とその研究視座の変遷—宗族を通じた検証」(研究分担者)

久保田 亮 平成 20～22 年度 基盤研究 (B)「現代社会における異文化共生の公共人類学的研究—東アジアと北アメリカの比較—」(研究分担者)

## (2) その他

川口 幸大 国立民族学博物館平成 21 年度リーダーシップ支援経費(研究成果公開プログラム)「中国における社会主義的近代化に関する研究会」

川口 幸大 東北大学東北アジア研究センター平成 22 年度「東北アジア地域」に関する共同研究「東北アジア地域における宗教の新たな展開」

## V 教員による社会貢献(2009～2013 年度)

沼崎 一郎 キャンパス・セクシュアル・ハラスメント全国ネットワーク(ボランティア活動)(1997-)

沼崎 一郎 仙台女性への暴力防止センター(ボランティア活動)、2002-

沼崎 一郎 内閣府男女共同参画局アドバイザー派遣事業派遣講師、2006～2010.

沼崎 一郎 独立行政法人 日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員および国際事業委員会書面審査委員、2010.8-2011.7.

沼崎 一郎 独立行政法人 日本学術振興会 基盤研究等第 1 段審査委員(書面審査)、2011.12-2012.11.

沼崎 一郎 八戸工業高等専門学校 男女共同参画に関する講演会講師、2012.8.1.

沼崎 一郎 仙台国際交流協会 台南市青少年訪問団研修会講師、2012.8.5.

沼崎 一郎 アジア経済研究所 2012 年夏季講座「変移する台湾の経済・政治・社会」講師、2012.8.10.

沼崎 一郎 東北大学大学院文学研究科 みやぎ県民大学「人間理解の方法論」講座講師、2012.9.29.

沼崎 一郎 宮城県 女性と子供安全・安心社会づくり懇談会委員、2013.5-2013.12.

沼崎 一郎 東京都港区「男女共同参画週間記念フォーラム 2013」講師、2013.6.29.

川口 幸大 宮城県立松山高等学校「「国際理解」に関する講話」（「日本のなかの中国、中国のなかの日本—グローバル化の時代に」）、2011.5.13.  
川口 幸大 東北大学大学院文学研究科と市民のセミナー「第11期 有備館講座」（「中国の村落における地域のつながり、祖先とのつながり」）、2012.6.17.  
川口 幸大 東北大学文学研究科市民のための公開講座「第6期 齋理蔵の講座」（「中国の住まいと神々」）2013.7.6.

## VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2008～2012年度）

SHIMA, Mutsuhiko, Contributing Editor, *Korean and Korean-American Studies*

*Bulletin*, New Haven, USA: East Rock Institute (1985.11.～現在)

嶋 陸奥彦 東北人類学談話会世話人（1996.4.～2009.5）

嶋 陸奥彦 韓国・朝鮮文化研究会運営委員（2000.10.～現在）

嶋 陸奥彦 比較家族史学会理事（2002.4.～現在）

嶋 陸奥彦 『韓国朝鮮の文化と社会』編集代表（2007.10.～現在）

沼崎 一郎 日本台湾学会幹事（1999.4～現在）

沼崎 一郎 日本文化人類学会 評議員（2008.4～2012.3）

NUMAZAKI, Ichiro, Editorial Board Member, *Asian Anthropology*, Oxon, UK:

Routledge, (2013.1-present).

川口 幸大 日本文化人類学会『文化人類学』編集委員(2012.4～現在)

## VII 教員の教育活動

### (1) 学内授業担当（2013年度）

教授 沼崎 一郎

- 1 大学院授業担当 文化人類学調査実習 I・II
- 2 学部授業担当 文化人類学概論、文化人類学基礎講読、文化人類学演習
- 3 共通科目・全学科目授業担当 言語表現の世界

准教授 川口 幸大

- 1 大学院授業担当 文化人類学研究演習 I・II
- 2 学部授業担当 文化人類学基礎講読、文化人類学基礎演習、文化人類学実習、人文社会総論、人文社会序論
- 3 共通科目・全学科目授業担当 文化人類学

## **(2) 他大学への出講 (2009～2013 年度)**

教授 沼崎 一郎

宮城学院女子大学「ジェンダー論」(2001～2009 年度)

放送大学宮城学習センター面接授業「台湾社会の形成と変容」(2012 年度)

准教授 川口 幸大

平安女学院大学「文化人類学」(2009 年度)

平安女学院大学「国際観光開発論」(2009 年度)

東北学院大学「文化人類学」(2011 年度～)

助教 久保田 亮

東北学院大学「文化人類学」(2009～2010 年度)

助教 杉本 敦

福島県立医科大学「文化人類学」(2009～2011 年度)

東北学院大学「文化人類学」(2011 年度～)